

吉川の風

東広島市立吉川小学校

令和6年11月19日

No.17 校長 沖 秀治

命の授業 ～ 校長編 ～

先日は道徳参観日及び学級懇談会にお越しいただきありがとうございました。子ども達の姿はいかがだったでしょうか。

各学年の授業を参観しているうちに、私からも「たった一つしかない命を大切にしてほしい」という思いを伝えたくなったので、今日は、私の体験とメッセージをお伝えしますね。

もうすぐ16年になります。

私には、親族のお墓以外に、毎年お参りをするお墓があります。そして、その前で手を合わせる度に、ある出来事が昨日のこのように蘇ってきます。

1月の三連休でした。家でのんびりしていた私のところに、一本の電話がかかってきました。私が教師になって初めて担任した子どもからでした。

「先生、ハーシーが亡くなった。」

私は最初、何を言っているのか理解できませんでした。詳しく聞くと、その亡くなった子は、深夜、仕事を終えて職場から帰ろうとした時、何でもない階段を踏み外し、頭を打って病院に運ばれたとのこと。そして、生きようと必死にがんばったけれど、三日後の朝、静かに息をひきとったのだと話してくれました。

21歳でした。お通夜に駆けつけた時、彼は写真の中から笑って私を迎えてくれました。それは、成人式の時に撮った写真。そして、その前には、悲しみのあまり泣き崩れる両親の姿がありました。

命を大切にしてください。

君達の命は、君達一人のものではありません。

お家の人に聞いてみなさい。

「命をくれますか。」

きつと言う。

「もし、お前の命がなくなるなら、今すぐ、自分の命をあげる」と。

親は、自分の命より子どもの命を守る。君達の命は、君達をこの世におくった親の命でもある。

何度でも言う。命を大切にしてください。

自分の命を自ら断つ人がいる。どんなに今が苦しくても、懸命に生きていけば、そして、周りの支えがあれば、きっといつか乗り越えることができる。

私が高校時代、生きることが嫌になって反社会的な行動を繰り返し、警察の世話になったり、停学になったりした友人がいた。でも、それで人生は決まらない。そんな彼も今では立派な父親になり、島で小さなカキ屋の社長をしている。そして「あの頃は」と笑って話をしている。でも…

命がなくなったら終わり。生きていれば、人生いろいろある。生きてさえいれば。

通夜から帰る時、亡くなった子の両親に、今日のことを、当時担任していた子ども達に話してもいいか尋ねました。両親は

「それで、子ども達が命を大切にしてくれるのなら、ぜひ話してあげてください。」と頭を下げられました。

最後にもう一度言う。命を、命を大切にしてください。



～ お知らせ ～

道徳参観日の日に、各教室のドア付近にチラシを掲示してお知らせしましたが、この度、デンマークのオーフス大学で脳科学の研究をしている先生にお越しいただき、4～6年生に授業をしていただくことになりました。

- 1 日時 令和6年11月22日（金） 10:35～12:00頃
- 2 場所 吉川小学校 理科室
- 3 講師 デンマーク オーフス大学
准教授 竹内 倫徳 先生



- 4 テーマ 記憶の仕組み
(予定) ～ これで成績アップ間違いなし!…かも? ～

お知らせが遅くなって申し訳ございません。ご都合のつかれる方は、ぜひお越しください。1～3年生の保護者の皆様も、もちろん大歓迎です。

